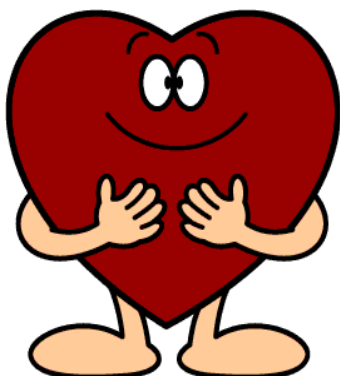


# 診療科紹介シリーズ 1 1 循環器科

循環器科医長 蓼原 太

呉共済病院の循環器科の特徴は広島県内においてもいち早く（1983年）心臓カテーテル検査、カテーテル治療を取り入れて、急性心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患の治療に取り組んできていることです。現在の循環器科のスタッフは医師4名ですが、全員日本循環器学会が認定した専門医であり、心臓カテーテル治療の学会指導医2名を含め臨床経験が13年から19年を有するベテランスタッフによる確かな医療技術で一人一人の患者さまの診療にあたっています。1年間の入院患者数は約700名、平均在院日数は約14日で、その多くは虚血性心疾患と心不全患者で占められています。その診断に必要な心臓カテーテル検査は、20年間で10,000例以上行っており、新聞でもよく見かける冠動脈ステントを中心とするカテーテル治療も今までに約2,500件行っています。冠動脈狭窄の複雑な形態かつ重症のため、数年前では心臓手術で治療していた症例に対しても血管内超音波（IVUS）による正確な狭窄病変評価を積極的に行いながら、再狭窄率の少ない薬剤溶出ステント、じゅく腫を直接回転式カッターで削り取るアテレクトミー（DCA）や動脈硬化で非常に硬い石灰化病変を削り取るロータブレーター、慢性閉塞性病変への再開通療法、左主幹部・分岐部へのステント留置などの手法を適切に使いわけることにより、低侵襲のカテーテルによる治療をおこなっています。心臓血管外科のバックアップの下、合併症の予防にも細心の注意を払っている結果、現在のスタッフになったこの3年間で待機的に行ったカテーテル治療症例中、合併症が原因で緊急心臓血管手術や死亡に至ったケースは



幸い一例もありません。また、薬物負荷心筋シンチグラフィは患者さまの拘束時間が少ない短時間プロトコルで行っており虚血性心疾患の有無のみでなく、疾患の重症度、予後評価につながる詳細な診断を行い、根拠に基づいた適切な心臓カテーテル治療に役立てています。